

昭和五十五年度大会の概況 日本思想史学会の昭和五十五年度大会は、十月二十五日(土)・二十六日(日)・二十七日(月)の三日間にわたり、東北大学文学部を主会場として開催された。

第一日は、「日本における歴史観の変遷とその特質」と題する主題発表と総会が行なわれた。主題発表の分担テーマと発表者は次のとおりである。

- | | | |
|----------|----------|------|
| 1、古代の歴史観 | 同志社大学教授 | 笠井昌昭 |
| 2、中世の歴史観 | 東京女子大学教授 | 大隅和雄 |
| 3、近世の歴史観 | 東北大学助教授 | 玉懸博之 |
| 4、近代の歴史観 | 青山学院大学教授 | 小原信 |

なお、司会者は、小沢富夫(学習院大学講師)・石毛忠(防衛大学校助教授)の両氏であった。

総会は四時半より行なわれ、事務局から五十四年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて事務局より五十五年度事業計画案および予算案が提出され、審議の決果、それぞれ事務局案通り決定された。

総会終了後、仙台ホテルにおいて懇親会が催された。

大会第二日は研究発表が行なわれた。午前と午後、それぞれ二会場に分れて行なわれたが、発表者は次の諸氏である。

- | | | |
|------------------------|----------------|--------|
| 1、『日本書紀』大化五年三月二十五日条小考 | ノートルダム清心女子大学講師 | 八重樫直比古 |
| 2、古事記における「火」の用法 | 山形大学教授 | 川副武胤 |
| 3、西行における孤独感 | 中央大学大学院 | 半田栄一 |
| 4、道元の貧学道思想 | 名取北高校教諭 | 加藤健一 |
| 5、親鸞の罪惡思想 | 東北大学大学院 | 市川浩史 |
| 6、念仏集団の社会的意義 — 親鸞の場合 — | 都立航空高専講師 | 新保哲 |
| 7、親鸞における自然の一考察 | 京都大学助手 | 工藤亨 |

8、『立正安国論』における国家と仏教

―「先祈国家須立仏法」の解釈をめぐって―

9、熊沢蕃山の仏教観

10、富永仲基と荻生徂徠の方法論の比較について

11、「朱子学者」徂徠

12、二つの『続日本王代一覽』

13、三浦梅園の含易論

14、宣長学の方法についての一視点 ―「道」と言葉と

15、平田国学の一方角 ―生田萬の思想をめぐって―

16、会沢正志斎の大嘗祭観

17、会沢正志斎の思想 ―華夷思想に即して―

18、『航海遠略策』に関する一考察

19、近世における「神」の一問題

大会第三日は仙台近郊の見学旅行がおこなわれた。

東北大学助手

東北大学大学院

武蔵大学大学院

宮城高専講師

岩手大学教授

東海大学大学院

生田高校教諭

立命館大学大学院

東北大学大学院

東洋大学助教授

久留米高専講師

東京農業大学教授

佐藤弘夫

荻生茂博

岡地正純

高橋博巳

藤原遷

五郎丸誠

茂木宣弘

桂島祐一郎

田尻喜一郎

小池喜明

吉田昌彦

小笠原春夫